

## 令和 8 年度 第 1 回 香南市産業振興計画策定委員会【議事録】

□日時：令和 8 年 5 月 28 日(木) 13:30～16:00

□場所：のいちふれあいセンター 2 階 第 1・2・3 研修室

□出席者

○策定委員 15 名

赤池委員(委員長)、北村委員(副委員長)、石丸委員、三谷委員、岩神委員、西村委員、梶原委員、明石委員、森 善康委員、川崎委員、小笠原委員、森尾委員、松村委員、飯島委員、山崎委員

○市職員 17 名

濱田市長、中屋課長(情報政策課)、山崎課長、西内課長補佐、小林係長(企画財政課)、小松課長、佐田課長補佐、川西係長、久武係長(農林水産課)、萩野課長、中屋課長補佐、山崎課長補佐兼観光振興係長、藤原係長、野村主査、平尾(商工観光課)

○傍聴者 2 名

□欠席者

○策定委員 2 名(森 周平委員、松田委員)

### ◆開催目的

令和 7 年度の総括及び令和 8 年度の事業計画について、また、当計画の変更点について各分野の担当課長より報告及び説明を行い、各分野別部会長をはじめ、有識者や産業関係団体の代表者と分野を超えた横断的な議論を交わす。

### ◆内 容

- ・令和 7 年度の総括及び令和 8 年度の取り組みについて、各担当課長より報告。
- ・各部会長より令和 8 年 4 月 20 日から 4 月 23 日までに開催された各分野別部会での協議内容及び補足説明等。
- ・上記のことについての意見交換

### 1. 開 会

事務局挨拶

欠席委員について報告。

本日の会は過半数以上の方の出席により、成立する旨を報告。

(香南市産業振興計画策定委員会設置条例第6条)

### 2. 市長挨拶

(濱田市長)

本日はご多忙のところご出席いただき感謝申し上げます。昨今の国際的情勢や様々な要因において、今の環境は非業に厳しい。市民生活や産業については物価高騰等、厳しい状況にあると認識してい

る。市役所でも財政が厳しい中で様々なことに取り組んでいる。一方で、財政再建を進める中で歳出をいかに抑えていくかということと同時に最もやらないといけないことは、いかに産業を育成し、歳入を増やしていくか、市民の生活を向上させていくかである。それぞれの分野において、それぞれの立場のご意見をいただきながら、市としてどのように前に進んでいくのかを決めていく大変重要な会であると認識している。それぞれの分野のみなさま忌憚のないご意見をいただきたい。

## ◇自己紹介

### 3. 議 事（進行：赤池委員長）

#### ①副委員長選出

副委員長の選出。（香南市産業振興計画策定委員会設置条例第5条第1項）

立候補なしのため、事務局案として、副市長 北村委員を提案し、異議なしとの回答により、決定。

#### ②令和7年度の総括及び令和8年度の取り組みについて

##### 【農林業分野】

農林水産課 小松課長より、農林業分野における令和7年度の総括及び令和8年度の取り組みについて、資料1～資料3を用いて説明。

（赤池委員長）

農林業分野の説明があったが、石丸部会長と三谷副部会長から補足をいただきたいと思う。

（石丸委員）

農業関係だけでなく一般企業も同じだと思うが、資材関係の高騰、入らなくなってきているのが現状。メーカーが今年の分しか確保できない、来年はわからないという話。非常に高くなってモノが入らなくなってきている。若い後継者が、今後どう生き残っていくか議論していかなければいけない。

特にピーマンについては、昨年度だけでも3件で1haくらい面積が増えているが、品目としては被覆資材、ハウス、重油、電気代と非常に経費がかかる中で、さらに資材が高騰している。今後も若い後継者が面積を増やしていくということで心配している。

経費があまりかからないニラ農家でも40代で離農した人がいる。利益が上がりなくなってきて非常に厳しい状況が続いている。今後、部会で検討しながら進めていかないといけない。他の企業の方の意見ももらって参考にさせていただきたい。

（三谷委員）

林業においても同じくモノがない、高騰している。一番大変なのはチェーンオイルで、木を切るにはチェーンソーやプロセッサなど全てにおいて必要。半年分くらいのストックはある状態で、その後がわからないという状態だったが、昨日突然注文している量の半分が入荷されて、なんとか今年は乗り越えられそう。仕事が止まるのかを心配しないとイケない状態。林業部会と農業部会とが合併したが、農業と林業でお互いのことがわからないので勉強しようという話になっている。

## 【水産業分野】

農林水産課 小松課長より、水産業分野における令和 7 年度の総括及び令和 8 年度の取り組みについて、資料 1～資料 3 を用いて説明。

## 【農林業分野、水産業分野について意見交換】

(赤池委員長)

農林業、水産業分野の取組について、ご説明をいただいた。本日、水産業部会長欠席ということで、部会の取り組みも合わせてご報告いただきました。農林業、水産業分野について、みなさまからご意見、またご質問をいただきたい。

(山崎委員)

産業振興計画ということで、高知県も高知県産業振興計画を策定して 20 年になり、物部川地域のアクションプランとして認定されているのが、ニラの取り組みになる。ニラについて、先ほど石丸委員からも離農の方がいらしゃると厳しい意見をいただいているが、ニラの生産はかなり頑張っていていただいているという認識。ただ、産業振興計画なので、1 次産業、2 次産業、3 次産業、全て一貫して産業を興していく、新たな取り組みに向かって進んでいくというのは、この取り組みの肝であると思う。長い間、香南市観光協会さんを中心に、香南ニラ塩焼そばの取り組みをずっと続けていただいているが、我々としては、次の手、別の手を香南市観光協会さんとも一緒に考えてやっていきたいと考えている。物部川地域のアクションプランの中で林業と水産業のプランがないという状況。水産業に関しては、先ほどご報告いただいた通り、シイラとシラスが大きな柱ではあるが、シラスが非常に厳しい、シイラもあまり獲れていないところがあり、魚をどう産業に繋げていくかというところの手がなかなか打ちにくい状況。林業に関しても県でいう特用林産という原木以外の山に由来するような作物などを産業振興につなげていけたらなと考えている。香南市は非常に 1 次産業が盛んなところなので、なんとかお金を稼ぐような方向で県と市と一緒にやっていきたい。また、委員のみなさまを含めて、関係のみなさまと密接に意見交換もしながらやっていきたい。4 月から香南市の地域支援企画員も変わっており、商工観光課の方に中山がいるので、香南市のみなさんも含めて、いろんな情報あったら是非、中山の方に教えていただきたいので、よろしく願います。

(赤池委員長)

ニラに関連して香南市観光協会さんから願います。

(森尾委員)

ニラに関しては、香南市イコール「ニラ塩焼そば」として地域の方も一定数、食べてくださっていると思う。資材の高騰や原材料の高騰などもあり、ニラ塩焼そばを作る専用の塩だれがあるが、成分を変えた方がコストを上げずに製造ができるため、検討を今後していく。塩だれを業務用として使っている業者にサンプルを食べていただいて、味をみて試行錯誤しながら作っていききたいと思っている。

(西村委員)

有害鳥獣の被害について、鳥獣の被害状況や被害金額的なものはどれくらいあるのか。また、有害鳥獣捕獲情報が書かれているが、駆除した後は、埋められて焼却するのか、ジビエ等で活用されるのか。

(小松課長)

有害鳥獣については、毎年同じではなく、増える年もあれば、そうじゃない年もある。豚熱が出た年はイノシシの数は減ると聞いている。駆除した後は、しっぽや耳を切って数を確認し、報奨金をお支払いしている。お肉などは、猟師さんがその場で埋めたり、新鮮で弾が当たる場所によっては、お肉にしたりとかはしているようである。被害額については、把握していない。

(赤池委員長)

農林業分野では、新規就農者数を大きな目標としていて、先ほど、部会長から説明があった通り、資材の高騰が、新規就農を目指す段階から少しハードルになっていると思う。例えば、研修をしてから実際自分で、施設をお金借りるなどして建てるというのは、先の話だと思うが、一番最初の新規就農の相談フェアに行かれる方自体が減っているのかどうかを感覚的なところで構わないので教えていただきたい。

(小松課長)

相談件数については、例年同じくらいきている。その中で、相談の内容が、香南市主要品目のニラ、ピーマン、シシトウでない方が来られて、例えばハーブなど指導する人がいないそういった品目を希望される人もおり、補助金は断念してもらえない状態である。ニラなどをやりたい人もいるが、研修を受けるのが難しいなどがある。いきなり就農してもすぐにできるといった簡単なものでないのに、研修をしっかりとしてもらうことを説明している。よく相談にくるのが、友だちで成功している人から一緒にやらないかという声かけから相談にきている人がおり、きっちりと研修を受けてと説明して、友だちに習うからといったことがないように市としては指導していかないといけないと思っている。それで断念される人もいる。資材の関係については、新規に建てるのはなかなか難しいので、中古のハウスを見つけてになるが、フィルムなども高くなっていることもあり、なかなか厳しい状況が続いている。

(石丸委員)

現場からになるが、今の若い方が農業にどのように魅力に感じて入ってくるのか、人間関係のしからみがない大自然の中でできるという感じで入ってきて、現場へ入っていくとそうでなかったというのが、現実じゃないかと思う。資材高騰の件もあり、20~30代前半は貯蓄もあまりない、運転資金もないまま参入してきて、実際入ってみるとすごく経費がかかり出して、運営ができない、経営ができない状態が続いていると思う。狭い面積から始めて規模拡大して行って、収入増えて行ってという本来だが、いきなり大規模でやりたがる若い人が多い。そういった場合、経験もなくいきなり入って行って資材が高いが事業に対していろんな投資が必要ということで、結局、自転車操業みたいになり、回らなくなっているような現実がある。そういった意味で、市の担当者の方の説明も今後していてもらいたい。農協の方もちゃんと説明をして、就農する気持ちを汲んで意見を提案しながら、指導していくことをやらないといけない。そのまま参入して軌道に乗れなかったというのが現実じゃないかと思う。

(赤池委員長)

南国市の「まち・ひと・しごと」の方でも同じような話を聞き、相談件数は多いが、なかなか担当者からすれば、現実とマッチしていない方が多く、マッチングの回数がうまくいっていないと聞いた。香南市だけの話ではないと思った。なんとかうまく行ってほしい。

### 【商業分野】

商工観光課 萩野課長より、商業分野における令和 7 年度の総括及び令和 8 年度の取り組みについて、資料 1～資料 3 を用いて説明。

(赤池委員長)

商業部会の補足を岩神部会長よりお願いしたい。

(岩神委員)

「マルシェこうなん」で、今年度は開催をしてないがツタヤへの出店に県の補助金があって、お客さんにサービスができたので、また県からの補助金をいただけたらと思う。

### 【工業分野】

商工観光課 萩野課長より、工業分野における令和 7 年度の総括及び令和 8 年度の取り組みについて、資料 1～資料 3 を用いて説明。

(赤池委員長)

工業部会の補足を西村部会長よりお願いしたい。

(西村委員)

他の部会でも意見があったようにやはり原材料の高騰および物が手に入らないということがだんだん出始めていると思う。去年の売上高においては、そこまで影響がないと思うが、本年分もしくは、原材料の仕入れ部分に関してはかなりの影響が出てくると思っている。賃上げを含めているところにも影響が出ているのではないかと思う。部会の中ではいかに人材を確保していくかということが出ており、県や市町村から資料をいただいている通り、明らかに今後、生産人口、働いていただける方の人数がどんどん減ってくるっていうのも明らかで全国がその状態だと思う。その中でどうやって、意識づけをしていくのか。特に学生に対して、我々工業部会という主旨があるが、やはりその製造業というものを知っていただく機会はどうするのか。工場見学について、小学生のお話があったが、評価が高い反面、安全面で配慮が必要で、凄く気を遣うというところもあった。そのため、人数的なところを絞りながらという話もあった。逆に小学生はまだ早い、中学生くらいの意識がある時に製造業、ものづくりの良さっていうのもやはり伝えていく取組も必要じゃないかというご意見があった。外国人労働者について、受け入れざるを得ない、彼らの力を借りないと日本人の人口が減少する中では、やむを得ないという状態。YAMAKIN の方では、初めて 6 名の方を雇用して、いろいろやった時に文化の違いや初めて受け入れた技能ということもあって、十分にお示ししたり、教育したり、一緒にやっていくことに非常に苦労している。そういった中で、農業の方などを含めてコミュニケーションの取り方や文化発信の仕方などノウハウをみんなで情報共有しながら囲っていきっていくという取組も必要じゃないかと思う。

(松村委員)

商業分野の新規事業者数は、新しく始めるということか。他の地域から香南市に来た人の新規ということで、数に数えるのか。

(萩野課長)

事業者数の定義としては、業種に違いはあるが、香南市に事業所を新たにおいていただいたら 1 カウントになる。

(川崎委員)

例えば、本社は別にあっても香南市に新しくできたら 1 件となる。

(山崎委員)

商業分野で県のアクションプランで香南市中心市街地活性化計画と連動するような形で設定されている。様々な事情もある中で今年 3 月末をもって香南市中心市街地活性化計画自体の終了となり、今後はこの計画をきっかけとした伴走支援を実施となっているが、具体的にこういった形で取り組んでいくか。例えば地域商業機能の維持計画といったカテゴリーがあると思うが、そういったものも今後見据えて取り組んでいくのかといったところを教えていただきたい。

(萩野課長)

昨年度末を持って終了した中心市街地活性化計画につきまして、実行していく上で事業者さんの方が、イベントを開催する日が土曜日、日曜日、休みの日にお店を調整しながらイベントに出店いただくのがなかなか困難というような事情も背景にあったように記憶をしている。そういった中でも岩神さんを中心としたマルシェこうなんについては引き続きフジ様にもご協力いただいて、定期的に出店をしていく予定。フジで出店する際にも市内の事業者だけでなく、市外の事業者も集めて、より集客力の高いようなイベントになるよう、取り組みを行っていく際の支援をしていく。また、今年度についてはまだ、調整が取れてないようにお聞きしているが、蔦屋書店にも引き続き出店して、より市内の事業所を知っていただく取組を広げていきたい。そういった取り組みについては、補助金のことを言われていたが、補助金でなく、伴走できる商工会や市でも協力しながら開催していけるような形で、引き続き取り組みをしていきたいと思っている。

(山崎委員)

中心市街地活性化や商業の振興などイベント以外に関しても県も一緒に入っていき形で、なんらか取り組みを進めいきたいと思う。

(梶原委員)

商業分野の奨学金返還助成事業で県内にいたり市内にいたという方には充実しているように感じて素晴らしいと思うが、例えば、香南市から転出された方もしくは転出されて就職活動をしようとされている方に直接情報が届くような仕組みは、取られたりするのか。

(萩野課長)

この事業については、要件として、まず香南市民であることというのが第一条件で、その次に、仕事を始めて、奨学金の返済を始められた方になる。転出転入を含めて、対象となる方にいかにこの制度を知っていただくかということについては、行政側だけでなく、商工会などいろんな方にご協力いただきながら、事業の周知を行っている。昨年度については、県内大学にもご協力いただいて説明をさせていただき、より多くの学生さんに市の制度を知っていただくように周知をしていただいた。香南市 LINE の方で、特定の方にはなるかもしれないが、より多くの若者に制度の周知をすることで、昨年は多くの認定件数にもつながっているの、引き続き、より多くの方に知っていただけるように周知していきたいと思う。

(梶原委員)

仕組みが理解できた。最近いろんな会でやっぱり若者の転出っていうのがすごく課題になって担い手確保っていうのはかなりしんどくなっている。やはり、就職してしまうとうなかなかなか戻ってくる理由をつくりづらくなってしまうので、できれば将来そうなるであろうという方にも情報が届くようにしておけば、就職活動の際にも市内もしくは県内事業者へと促しができるんじゃないかと思い、質問をした。

(萩野課長)

補足として、就業だけでなく昨年度拡充した内容に一次産業への就業、ご自身で起業された方も対象としている。そういった方がいらっしゃいましたら制度を周知いただき、商工観光課まで繋いでほしい。

(赤池委員長)

私も大学の講義の中で、やはり、学生、特に県内就職を考えている学生は、高知市、南国市、香南市といった今キャンパスの置いてあるところに、居住している場合が多いので、引き続き継続的に住むか、引っ越すかってことを選択する時の一つの材料になっているかなと思う。申請しているかどうかはともかく、そういったことを含めて若者、または、新規で市民になる方を支えているようなまちづくりをしているってことは学生に伝わっていると思う。

工業分野について、新規雇用者数で目標数値が設定されて11、16とあるが、当然退職されている方もいらっしゃると思うが、総数としてすごく減っているのか、11というのが退職されてる方の分を補完するぐらいの目標数値になっているのか、例年そのぐらい就職されているから、それを維持するってことだと思うが退職される方はもっといらっしゃるのでしょうか。社内の話になってしまうと言いつらいと思うが、全体として香南市内のその工業分野においてインパクトがあるのかっていうことを、少し感覚的な面でも教えていただきたい。

(西村委員)

現状だけで言えば、退職は様々な事情があって退職されるので一概には言えないが、企業としては1年でも長く働いてほしいと思っている。退職年齢がどんどん上がっている現状から鑑みれば、今のところ全体からすればどんどん減っていくという状態ではない。様々な兼ね合いが今後出てくると思う。親の方を継がないといけない、親の介護をやめないといけないなどいろんなことは出てくると思う。企業として言えることは、人はぜひとも定着して欲しい。私のところで言えば、正社員やパート社員の方々では補えないので、派遣の方をわざわざお願いしている。多くの企業はたぶん人手不足だと思う。委員長の話で言えばどんどん退職していったこの分で相対的な数は減っていったということはあまり今のところはない。

(川崎委員)

人の問題ですけど、全体的に把握しているわけではないが何社か製造業の社長とお話する中で、やっぱり人手はどうしても欲しい、確保したいという、共通の課題。商工会の総会に県の方が来て話されていたが、そもそも新卒の数が減っている。その少ないパイを奪い合っている。なかなか小さい企業には来てくれない。そのため、高齢でも働いてもらったり、退職した人に手伝ってもらったりでなんとか維持している状況。近年のコスト高もある。売上は価格転嫁で上がっているが、原材料費がそれ以上に上がっていて利益が圧縮されている。昨年度の先端設備導入は、設備投資ありきなもので数が減っている。今年、県が何でも使える補助金を出してくれて応募が殺到していて採択が厳しそう。賃上げとセットで設備投資しませんかといった補助金なので、前に進みたいけれど世の中の情勢が許さないというジレンマがあるよう。前を向いている事業者には商工会として支援していきたいと考えている。

(赤池委員長)

雇用の話も出たので、明石委員からイシン(株)の取り組みや香南市のオフィスの様子や状況につ

いて、ご説明、ご紹介いただきたい。

(明石委員)

中東情勢よっての物価高や物資不足、人手不足が結構、深刻な状況なのは非常に理解できた。弊社で言うと数年前から香南市にオフィスを構えていて、今 4 名ほど常勤で働いている。この夏までに 8 名ほどにしてまだ人が足りないので、プラス 5 人ぐらい新たに採用していく予定。そうなるとオフィスが足りないで何かしらの拡充をしないとイケないというのが目下の課題。やっていることとしては、1 つは、自治体向けにテレマーケティングという電話によるアンケート業務と東京本社の定形業務を香南市の方に移管する BPO の 2 つをやっている。昨今、東京の状況でいうと、私の周りでは IT やサービス業が多く、物不足などの影響はあまりない。大きなトピックとして、生成 AI がこの 1 年ぐらい大きなトピックとして出てきて、非常に業務が効率化され、人がいらなくなるのではないかっていうことが出てきている。今、アメリカや中国で AI 投資がかなり加熱していると思うが、オフィスの仕事を奪い取るということが、今非常に起き始めてきていて、そういう面で言うと新卒も比較的まだ売り手市場というか、人の奪い合いみたいな形になっているが、その新卒採用も徐々に結構厳選採用になってきていて、新卒も若干絞っていき始めたりしている。大手の銀行や会社の事務職とかホワイトワーカーの人たちのリストラとか新規で採用せずに自然減で徐々に削減していくみたいなことが結構大きく今年、来年くらいで行われるのではないかと思っている。逆に去年、一昨年ぐらいはかなり採用というか、人が足りないっていうので、人材紹介の価格が高騰していたが、去年、今年ぐらいから生成 AI が来て、逆にこう人が余るのではないかとか、そういった現象も出始めてきていたりしている。今まで IT で起業するというの是一般的で簡単だったが、AI によって IT ベンチャーで起業するっていうことはできなくなってきて、そういう人たちはむしろ店舗や採算が合うのであれば、一次産業などで起業したいみたいな人は非常に増えてきたとかそういう声が出ている。より生成 AI に食われないところでのビジネスを作っていきたい、店舗型や一次産業、農業などに関心がある。代替できないところを起業機会として捉えている人も多いと思う。

(赤池委員長)

大学関係で言えば、就職の状況や新規採用の状況がだいぶ変わってくるのかなとお話を聞いていて思った。特に、最近も学生と就職の話をしていたが、まだまだ売り手市場だと思っていたら、ちょっと状況変わってきているのかなっていうのは今お話を聞くだけでもちょっと感じた。そうすると、高校生も大学生も新卒者はどういう風に確保するかっていうところも、就職活動のあり方も変わってくるのかなと思う。特に本学の学生であればどうしても県外出身者多いので、県内就職っていう選択肢が広がっていくのかどうか、ちょっと働き方とか採用方法が変わる中で、就職室がそこまで状況把握しているとは思えない。今話を聞いて、特に東京で大きなところで動いていることだと思う。本学の学生自身もまだ全然敏感に感じてないところだと思うので、ここから、来年、再来年あたりの就職活動のところで、状況変わるだろうなって、強く感じたところ。

AI の活用のところについて、明石委員から働き方がもうだいぶ変わってきたということも、それはもう現場レベルに変わっているということだが、今、大学の方でも文部科学省の予算になるが、AI を使った地域貢献、産業、農林水産業問わず、工業商業も含めて何か AI を使って、活用して、もっとこれまでの研究資源を活用するや実際の地域の課題を解決するということにかなり予算が降ってきており、大学の教員の地域への関わり方というのも少し変わってきたように感じる。これまで、どちらかというと研究室ラボ単位でやっている先生たち、様々な研究者が地域に関わっているが、今までと違った形での AI を活用した地域貢献というのが、少しずつ大学の教員の中にも入ってきていると思う。まだ具体的に何がこの産業振興計画に対して、提供できる、お役に立てるかというのは、私自身もまだちょっと分からないが、大学も AI が仕事の現場だけではなく、業務の効率化や地域づくり等の部分

でも大学とこれまでは違った関わり方ができるのではないかと感じているところ。例えば、私は歴史のインタビューをずっとやっているが、200 人以上のインタビューをしてきて、音声データがあって、顔写真の映像データがあって 10 年以上貯めてきたものを AI に分析させる。歴史のことを聞いていたが介護や福祉など地域の持続可能性みたいなところでヒントがあるのではないかとということで、そういったデータを入れることで今やろうとしているのは、昭和 20 年代の女の子を AI で作ろうとしていて、その子と会話ができる、しかも、日本語、中国語、英語が喋れるっていうこれまでと全くことなる AI の活用のあり方が産業振興の中で起こってくるのではないかと思う。そのときのパートナーの一つとしての大学は少しずつ変わり始めているので、企業の中の導入の部分と明石委員の話を聞いていて、AI ってというのは、この産業振興計画の中で経営体単位だけじゃなくて、何か協力してできることや勉強会も含めて、何か大きなヒントいただいたのではないかなと感じた。

(飯島委員)

自身は個人事業主で AI に関しては新しい部下ができたような感覚。一人で仕事をしているので、相談相手や参考でアイデア聞いたりしている。コストがかからずスタッフが 1 人増えたような感覚。今後は AI をうまく使える人が大事だと思う。こういった会の中で AI の相談員が 1 人いても面白いかなと思う。

(赤池委員長)

委員を委嘱するかはともかく、アドバイザー的には十分あり得る。議事録を起こすところではもうかなり活用されているところだと思う。資料の準備とかっていうところでもあると思う。AI の活用については、香南市単位でやることになるか、全県的に、もしかしたらもう個別の企業、または業態単位でも既にやられていることかもしれないが、何か新しい産業振興計画を考える上でも大きなヒントになるのではないかと感じたところ。明石委員から補足を。

(明石委員)

パソコンを使ってやる仕事はこの数年で AI に食われてしまう、仕事がなくなって人が余ると思う。本当に人じゃないとできないのが産業に移行していけたらいいではないかと思う。一次産業への誘導を加速すればいいかと思う。起業する人も昔はインターネットでアプリやソフトウェアを作ったりが起業後の手段だったが、AI が代替できてしまう。起業の種も IT やサービス業ではなくなってくるので、簡単な話ではないが、そういった人を誘導して就農などに繋がれたらいいのではないかと思う。

## 【観光分野】

商工観光課 萩野課長より、観光分野における令和 7 年度の総括及び令和 8 年度の取り組みについて、資料 1～資料 3 を用いて説明。

(赤池委員長)

観光部会の補足を部会長よりお願いしたい。

(梶原委員)

部会当日は業務のため欠席していたが、取りまとめいただいているので読み上げさせていただく。撮影スポットでのマネタイズという意見が出ていた。弁天座などは結婚式の前期撮影などに来られるということで直接収益になっているが、例えば花フェスタの会場では直接収益にならず、そこに来て事業している方の収入になっているということもあり、使用料収入につながるであったり、香南市内のカメラマンを使ってもらい、市内のここで撮影してほしいというふうに、セールスをかけるのもいいのではないかということであった。

インバウンドについて、基本的に日本人観光客数は減っている傾向にあり、観光消費額は目標を達成している。インフレや物価上昇、インバウンドによる増加ということだが、日本人の消費意欲の減少を鑑みると入込客数や売上を伸ばしていくためにはインバウンドをいかに獲得していくかというのが重要になってくるかと思う。部会では、こういうふうにしていこうという議論には至っていないが、クルーズ船のように出発する時点で目的地と寄港地でのことが決まっているようなものも含めて、海外航路も広がるし、韓国、台湾の路線もできる。先ほども説明があったが、観光協会の SNS が伸び率も非常に好調ということで、香南市に魅力を感じてくれている方たくさんいると思うので、何らかの策を練って、売り上げにつなげていきたいと考えている。

三宝山エリア観光の令和 7 年度の新しい取り組みとしては、大谷地区の 4 施設が連携をして、三宝山エリア観光を考える会を設立している。初年度ということもあり、大きな発想はできないので、とりあえず 4 施設でのスタンプラリーということから始めている。始めてみての気づきとして、自分たちでは台紙を配って申込をしていただく数が少ないと感じていたが、DMO からの話では、数値は悪くないというお話もいただいたので、アップデートしながら引き続き継続をしていきたいと思っている。結果的には周遊が図られ、課題となりやすい閑散期の誘客にはつながったのではないかと感じている。今後の展望としては、本年度も引き続き周遊促進、滞在延長につながるハロウィンのイベントやスタンプラリーを実施する予定。303 スタンプラリーに周辺の事業者からもぜひ参加したいというお声もいただいており、自分たちの広げられる力も見ながら順次やってけたらと思う。

(小笠原委員)

入込客数を増やすのは、観光部会で出た意見のとおり日本人は減っていくだろうと考えているので、インバウンドを増やしていくことは有効だと思う。全体の取り組みを見ながら商業者数は減っていくけど入込客数は増やしていかないといけないのかということと、本当にお店が 1 件減るとするのは、観光の分野でもすごい打撃を受けることがあって、昨年度、一昨年度もなくなったお店で一斉に食事はしなくなって、キャンセルになったり、数を減らすなどチャンスを失うところも出てきている。物部川エリアを売りたいというところでアプローチはしているが、商業者数が減少していくというところだが、こちらで働いてくださる方がしっかり増えて、受入を増やしていけたらと考えている。受入を増やしていくというところで、絵金蔵、弁天座はインバウンドにすごく人気がある。紹介をしたらほぼ入ってくる。どうしても事業所の本来の姿で、この日に何百人来てくれてと紹介するが、その日は予約が入っているからとなかなか繋がらなかったことがあり、昨年度もかなり機会を失ったなど残念なところある。また、いざ来てくれるっていうときにその日、人がいないからキャンセルしてって言われたこともある。それはあってはいけないことで、そんなことがあるとその後が全てキャンセルになるので DMO のスタッフの中で対応したが、DMO のスタッフも暇だからいけるってわけではなく、残業して休日出勤してやっている。人が少ないというところはまだまだ問題のところだと思うので、そういったところも観光分野と一緒に商業分野の皆さんとも考えていける取り組みになればいいなと考えている。先ほどのインバウンドの話だが、数か月前にたくさんの外国の方が絵金蔵と弁天座に来てくださったんが、実は 2 年前の商談で決まった内容。本来であれば、1 年前に来てくれていたが、受入ができないというところで、キャンセルになって 2 年後来てくれた。2 年待ってくれたというのは、それだけ絵金蔵、弁天座

に魅力があったということだと思う。もう 1 回来てもらおうと思ったら、さらに行きたいお客さんたちがあそこ良かったよとアンケートに残してくれるってところが大事だと思っている。来てくれた方にはしっかりと取組を紹介しているみなさんでお願いしたい。今、隣の香美市の酒蔵さんがすごく成功している。1 回 30 人規模の団体が来たときに全館で対応したのを見て、旅行会社が気に入って、次、3 台のバスを送ってくれた。そこでさらに前よりも改善をしていた。ここ足りなかったというところをブラシアップしていて、それを気に入ってくれた旅行会社が最終的に今年度 1900 人を送ってくれることになった。そうやって、どんどん良い取組みをしたところは、絶対に増えていくってところを今回、私たちの革新的なところだったので、香南市でももちろんできる場所だと思っているので、ぜひご協力いただけたらと思う。

303 スタンプラリーについてだが、目標に達してなかったと言われていたということが気になって、商工観光課にご提案させてもらったが、スタンプラリーは台紙を配布して戻ってくるのは 1~5%くらいと言われている。今回、8%くらい戻ってきている。すごく成功しているので、単純に言えばおそらく配布数が少なかった。おそらくもっといい取組をして今の配布数で上げることもできると思う。隣の事業者さんが一緒にやりたいと言われるのは、成功を見ているところがあると思うので、一緒にさせていただければと思う。

(森尾委員)

303 スタンプラリーについては、香美市の酒蔵さんの取組のように次へのブラッシュアップが一番いいと思った。私はスタンプラリーの取組を知っていてお買い物をしてスタッフの方がやっていますのでっていうふうに同時にカードを出してこない、こちらから言ったら出してくる、そういうのはやっぱりチャンスを失っていると思う。また、他でもらって忘れてきたから、スタンプを新しいものをもらって、次のところで合わせてくれるのだろうかなど思って 3 施設目が回れなかったなどあったので、そういったところを改善していくと、さらにいいものになるかもしれないと思った。

取組の中で、カメラマンさんがチューリップ祭りで、有料で写真撮影を行うサービスやっていたって報告があったが、こちらは観光協会の方に問い合わせがあり、実行委員会さんの方へつなぎ、他に出店されている方と同じ出店料を実行委員会に支払われる形で受け入れがオッケーとなった。素敵な写真を撮る方だったので、時間枠いっぱいになるほど人気だった。同じくあじさい街道でもあり、おつなぎさせていただいている。そのカメラマンさんは、香南市観光協会の会員様にもなったださり、また次の展開も考えられるのではないかと考えている。

観光協会の SNS での情報発信についてもなるべくタイムリーに正確な情報といい写真素材を使って発信していきたいと思って取組みをしている。なかなか広告を出すのは難しかったが、あんばんでみなさんに見てもらえる時期もあったので、取り組んでいった。3 月の終わりには、5000 人を達成し、現在 5400 人ちょっととなっている。DMO さんのものべすとのアカウントをサポートしていたみなさまに意見を聞くと月の 200 件ぐらいのフォロワー増ってというのは、いいアカウントだと言ってくださったので、一定数、増減あったとしても、右肩上がりしていけるといいなと思っている。観光協会のフォロワー数が増えたのは、DMO さんと一緒に SNS フォローキャンペーンなどに同行させてもらい、1 日にかなりの件数を伸ばした。また、継続して見ていただけるアカウントであるべきだと思っている。ものべす

とアカウントとの共同投稿っていうのもあったので、一定数の底上げがあったものだと思う。今後なるべく共同で地域の物部川エリアの情報発信を一緒にさせていただければと思う。

(赤池委員長)

農林業、水産業、商業、工業、観光分野の令和7年度の総括と令和8年度の取り組みについてご確認をいただいた。全体を通して皆さんからご意見はあるか。

(飯島委員)

住民として、結構地元のものを買っている。かちり入りじゃこがすごく大好きで、地場産のお店を転々としている。みかんももちろん山北みかんを買っているし、心情としては買うことでみなさんの応援をしている。物価高騰とかあるが、現場の方に踏ん張っていただきたいという思いを持っている。もちろん商業工業も去年、ポリテクカレッジでYAMAKINさんが出店されているところに訪れたことがあり、その時にグッズをいただいて、娘がすごく喜んで、その後、3Dプリンターが欲しいなって言っちゃって、僕も踏ん張んなきゃなどの思いもあったので、最先端技術が見られると子どももすごく喜ぶので、そういうイベントとかが頻繁にあるといいなと思う。工業以外でも商業でも観光業でもそういう機会に触れられるように親として、香南市を回っている。

(赤池委員長)

各分野、特に商業、工業も含めて観光だけではなくて、市民のみなさんが直接関われるところが多いところも香南市のいいところだと思う。そういった意味で、もう少し各部会で今、どういうことを考えているのか、どういうことに悩んでいるのかっていうことがもう少し市民のみなさんになんか助けていただけるような接点があって、何か一般市民も応援できるような取り組みがあるといいなと感じた。

### ③香南市産業振興計画(令和8年度版)の改訂について

事務局より修正箇所の説明。

(赤池委員長)

計画更新していくということでよろしいか。

⇒承認

### ④香南市産業振興計画表彰の評価基準について

事務局より香南市産業振興計画表彰について説明。

(赤池委員長)

選考が上がってきたヒーロー候補者をこの委員会のメンバーで選考を行うということで、評価基準の案が選考シートというので示されている。技術・知識、未来への志、憧れ、地域貢献、今後の期待の5項目について、それぞれ優・良・可の3点で評価をするということで、15点満点で評価をする、プラス、選考員の所見所感というものが入って、最終的には総合判断をして、認定または認定不可を決めるということ。この企画案そのものが産業振興計画の中で、やはりずっと継続して議論をして、考えてきたのは、担い手をどういうふうに確保していくのかということ。これまで各分野で議論をしていたが、少し色を変えて、かっこいい大人、憧れてしまう大人っていうのをこの各分野から、自薦、

他薦いただいて、香南市ヒーローという形で市民のみなさんに広く知っていただいて、仕事に興味を持ってもらおうというような取組になる。ここにあります通り、自薦もかまわないのでみなさんもヒーローとして活躍していただけるかもしれない。みなさんには、推薦で上がってきたものに対して審査をしていただく。

(事務局)

11月にヒーロー認定式を行って、香南ケーブルテレビさんにヒーローを取材させてもらってというスケジュールになる。

(赤池委員長)

分野については各分野1人ずつということか。基本的には審査の中でそうするということが良かったか。

(事務局)

各分野に1人ずついれば良いが、推薦になるので偏りがでる可能性もある。

(赤池委員長)

新しい取組がこの委員会や未来戦略の委員会の合同会議の企画の中から出てきたので、みなさまから推薦をいただきたい。また、自薦も願います。

(梶原委員)

自薦、他薦で何の分野に推薦するのかがないので、選考にどの分野にあげるのか困りそう。

(赤池委員長)

ヒーローを見ればわかるということかもしれないが、確かにどの分野かというのは理由書の中にあるのか。何となく推察するのか。

(事務局)

推薦書の中に職業を書くところがある。

(赤池委員長)

審査の段階でどこのところで、ヒーローの色みみたいなものをこちらの方でこの分野のっていうことを最終的に判断するということが。自分から私は、香南市ヒーローレッドになりたいっていうよりも報告をいただいた中で、どの分野に該当するのかっていうことになるのかもしれない。多分申請を見ると分かるのではないかと思う。

(梶原委員)

観光で成り立っている人が少ないので、ホテルとかバス会社の方だと分かるが、例えば、酒蔵メーカーさんが大杯飲みをされていて、観光で来た場合は製造業なのか、観光業なのか、選考に困らないかと思った。

(赤池委員長)

事務局的には、観光が2人いてもかまわないと思うが、5人全て揃わないといけないということではないと思う。何となく5つあった方がいいとは思っている。申請書を希望するヒーローとかっていう枠を作るとかってことか。5つの内、丸をつけていただくなどすれば、ご本人はこのヒーローがいいっていう丸付けをした方が、選考がスムーズに進むのであれば、次点を決める時もいいと思う。様式はまだ変え

られるのか。

(事務局)

要綱で様式は決まっているが、添付書類などで書いていただくことはできる。

(赤池委員長)

理由書の中に希望するところを一言、事務局から希望するヒーローを書いていただくようお願いするということにしよう。様式は変えずに受け取る際や推薦いただく時には、どの分野ですかというのを事務局から確認していただくということで。

(川崎委員)

市内に在住、在勤または在学となっているが、在住はマストなのか。どれでも良いということか。

(事務局)

どれか一つ該当したら良い。

(赤池委員長)

この仕組み自体を知っていただくために広報はどのようにされるか。

(事務局)

チラシ配布、ホームページ、市広報、LINE 通知、委員のみなさまから周知をしていただきたい。

(赤池委員長)

たくさん出していただく上で落とすとなると理由も大変だが、ヒーローを選ぶのもなかなか大変だと思うが、ご協力をお願いします。

(飯島委員)

ヒーローの選考は一日なのか。資料だけだと僕の知らない分野の方とか、どうやって説得力を中に入れ込めるのかなど。1 ページ目にサンシンジャーとあるがどういう乗りでヒーローを PR していくのか、僕らは選考していくのか、エントリーしていただくのか。

(萩野課長)

このプロジェクトについては、赤池委員長が仰っていただいたとおり、できるだけ多くの方にヒーローの推薦をいただいて、ヒーローになってもらいたいというのが趣旨であり、甲乙をつけるというよりはみんなにヒーローになってもらいたいというのがある。もう一つにあるのが PR の部分になるが、いろんな産業の方で活躍している方にケーブルテレビにご協力いただいて、取材に行っていたいろいろなお仕事を取組を放送いただくことで、市民の方に魅力を感じさせていただくというのは一番の目的となっている。審査の時にやっておられる内容などを深く知っていただく分には、推薦書などの記載している分では、読み取れない部分もあるかもしれないので、事務局で書類をお預かりした時点で、そのかたについて、リサーチや補足をさせていただいて、委員のみなさまに一定ご説明ができるようにしたいと考えている。戦隊モノというよりは、企業さんの PR にもなるし、香南市の未来である子どもたちに少しでも地元の産業のいいところや活躍していただいている方を知っていただくことが趣旨である。

(赤池委員長)

審査の方法で、どのぐらいの推薦が出てくるか、どういうノリで募集するかによると思うが、ここに

らっしゃる方々の分野の働いている方の中でご推薦いただいたらいいのかなと思う。一般公募するが、香南市の仕事の魅力、その人を通じて仕事の魅力、やりがい、香南市に住むってことの魅力伝えていただきたいと思う。

(松村委員)

働いている方を紹介することがメインなので、1回で終わりじゃなくて、これをきっかけに盛り上がった第2、第3をやって、香南市にはこんな人がもっているよとどんどん発掘していけるようなものに育てていけたらいいと思う。最初は失敗してもいいと思う。第一歩が大事なので怖がらずにやっ

(赤池委員長)

今回、基本5名ということだが、こういう趣旨であれば何人にとってもいいのかもしれない。もしかしたら子ども版とか。象徴的なヒーローをここに選ぶしことが目的というよりは輪を広げていくってところがいいのかなと思う。最初は5名、応募の状況によってはわからないが、基本的には最初5名をとるとのことだと思うが、その次については、頻度であったり、できるだけ多くの方がやっぱり表彰されるって嬉しいし、やっぱり自分の働いていること、自分の身近な人がこういうふうに選ばれるってのはやりがいにつながると思う。

(岩神委員)

印刷会社からの立場になるが、このタイトルは産業ヒーロー募集中とあるとヒーローになる人を探しなさいみたいな感じで受け取った。これは、ヒーローの人を自薦、他薦の方を募集中なら、そっちのタイトルにならないとこのタイトルを見たら、ヒーローになる人を探しなさいにとってしまう。このチラシのタイトルを考え直した方がいいではないか。私たちは知っているから自薦、他薦を募集しているとわかるが、ヒーローになる人を募集しますととるのではないか。

(赤池委員長)

応募方法がかなり煩雑である。書類出さないといけない。言われるとおりに、私もヒーローになりたいという人を募集しているとなるということだと思うが、まずはこれでいこう。それで5名しっかり決めよう。それでその後ヒーロー像というものが出てくると思うし、一番は若い人たちも含めてなんか興味を持っていただけるように何が新しいきっかけしよう。まずこれでやってみて、募集開始が6月ということなので、みなさんのところでお声がけいただければと思う。広告については、第2弾のときにご相談させていただきたい。

本日のまとめで、令和8年度の第1回目ということで、やはり担い手をいかに確保していくのか、物価高という状況が分かってきた。私としてはやはり若者や外国人、AIっていう話が出てきて、これからの働き方や働く香南市の魅力のつけ方についてちょっと違った工夫が必要じゃないかと思う。明石委員のご発言からAIにできない仕事というのがまだまだ香南市にはたくさんあるし、そういう見せ方も必要なのかなと感じた。

(事務局)

事務局より令和7年度のスケジュールについて説明(参考資料1)

## ◆ 閉会挨拶

(北村副市長)

赤池委員長のまとめと重なるが、各部会における議論の報告や委員会のご意見をいただき、全体としては、やはり資材の高騰や資材の確保が難しい、人口減少という観点から人材の確保、観光分野においては施設の入込客数においては日本人観光客の減少が課題ではないかとかいう意見をいただいた。これまで、個別のそれぞれの取り組みにおいては、実績が上がりにくい背景っていう部分もあるが、それぞれの分野の声をしっかりと聞きながら、この産業振興計画の取り組みをしっかりと進めてまいりたいと考えているので、引き続きお願いを申し上げます。また、重ね重ねになるが、香南市ヒーロー発見プロジェクトにたくさんの意見をいただいた。職場のヒーローの推薦をいただきたいことをお願い申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。

以上